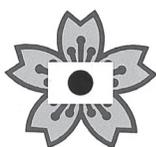


国防は最大の  
福祉である  
初代会長 故 高橋季義



# 國の支え

(故中井信夫元大阪府議会議長・95才)

関西防衛を支える会  
(略称・関防会)  
〒542-0081  
大阪市中央区南船場3-11-10  
心齋橋太陽ビル7階  
TEL 06-6241-1124  
発行人 濱野晃吉  
編集人 新川貞敏  
印刷所 (株)新聞印刷

第54号  
(春季号)  
平成25年4月1日(月)  
(皇紀2673年)  
(大正紀元102年)  
(昭和紀元88年)

## 国家の再生を願う

平成25年1月30日(水)・平沼赳夫衆議院議員・国会代表質問より抜粋



《衆議院副議長(が指名する)平沼赳夫君(平沼議員登壇代表質問開始)》

まず初めに、アルジェリアで不幸なテロによって生命を奪われた被害者の皆様の御冥福をお祈りし、御家族の皆様方に心よりお見舞い申し上げます。私は日本維新の会を代表して、安倍総理大臣の所信表明演説について質問致します。(拍手) 日本維新の会は、この度の総選挙において、五四議席を獲得し、比例で頂戴した票の総数は一千二百二十六万票ありました。全体の二〇％で、二番目の地位を占めたわけでありました。私どもは、国会の第三党としてその責任を自覚し、日本のために、国政の場において、是非の基本姿勢で今後の政治に責任を持って対処してまいりたいと思っております。

陽明学者・山田方谷の実績  
本題に入る前に、私が岡山が生んだ、幕末、江戸後期の偉人、備前松山藩の山田方谷について触れてみたいと思えます。  
松山藩は当時大変な貧乏藩で、石高は五万石でしたが、方谷が調べたところ、実際は一万九千石ほどしかなかった、と言われております。そして、借金は膨大で十萬兩の借金が大坂の両替商にあり、利息を払うだけでも四苦八苦の状況でした。藩主・板倉勝静に請われて、全権を委託されて元締役兼吟味役、いまでいえば財務大臣に就任したわけでありました。

彼は、今より二百年ほど前、一八〇五年に現在の岡山の高梁市で生まれました。家は貧しい農家で、菜種油の製造と油の販売を行っていました。幼くして両親を失った方谷は陽明学を学び、苦学しながら家業に精を出しました。  
彼は神童の誉れ高く、その学徳が藩主に認められ、わずか九歳の折将来は何になるか、と問われたとき、治国平天下と答えたと言います。大学にある修身齋家治国平天下、身を修めて、家をととのえ、もって国を治むれば天下は平らかである、この言葉を九歳の少年が堂々と述べたというので、皆びっくりしたそうです。

彼は、京都や江戸へ出て学問にいそしみ、武士に取り立てられるまでに至りました。江戸では佐藤一斎  
「言志四録」の著者、西郷南洲の愛読書の塾に入り、佐久間象山と二傑と称され、彼が塾頭になったわけでありました。  
二十二歳で故郷の松山藩に戻った方谷は、藩校の有終館の学頭、教授となりました。方谷は、教育家として学識、経綸に一生懸命邁進し、四十歳で殿様の教育係にもなったわけでありました。  
方谷は、現在の日本に匹敵する財政難に必死で立ち向かいました。方谷は、節約の号令を発し、藩札の刷新、産業の振興、藩政改革、文武の奨励、軍政の確立、新田の開墾等々で一生懸命に取り組み、現在の貨幣価値でいうと六百億円にもなる十萬兩をわずか七年で完済し、その上に十萬兩の蓄えまで持つことができました。  
彼は、節約でお金を浮かし、大坂の両替商には正直に内情を示し、再建計画書を提出、利息を付けてもらい、この資金で製鉄のための「たたら」をつくり、鉄製の三本股の備中鍬を大量製造して、当時、日本の総人口の八割を占めている農民に向かって、江戸でこれを販売ししました。これが羽の生えたように売れ、藩の収入に大変寄与しました。この利益で方谷は街道の整備や港の建設を行い、流通面でも配慮したわけでありました。

方谷の貨幣改革  
当時は、藩の発行した紙幣の藩札が紙くず同然になっていて、それぞれの家に眠っていました。方谷は、藩札を持ってこれば金貨、銀貨、銅貨との交換を約束しました。藩じゅうの人々は半信半疑で藩札に持ってきました。約束どおりに金、銀、銅貨に交換してくれ、集まった旧藩札を藩の中心にある河原にうずたかく積み上げ、方谷は衆人環視の中で、これを火をかけて燃やしました。そうして新たに藩札を発行しました。新しい藩札には信用があり、瞬く間に流通し、隣の藩にまで浸透したようです。

### 龍虎の防衛大臣政務官を迎えて国防大演説会 今、日本が危ない！

主催：関西防衛を支える会

期日 平成25年6月29日(土曜日)  
時間 14:00開始～終了16:30予定  
会場 大阪国際交流センター・小ホール  
(座席200席・先着順)  
大阪市天王寺区上本町8-2-6  
☎06-6772-6729  
近鉄上本町駅から南へ徒歩5分  
地下鉄・谷町9丁目駅から東南方面へ徒歩10分

司会 田中正剛  
西宮市議会議員(神戸大学工学部卒・38才)  
挨拶 濱野晃吉(関西防衛を支える会々長)  
弁士 先鋒・神谷宗幣  
自民党大阪第13区支部長(36才)元吹田市議会副議長、関西大学法科大学院卒  
中堅・左藤 章 防衛大臣政務官  
(自民党衆議院議員・61才) 福井大学工学部卒、大阪2区選出当選3回  
大将・佐藤正久 防衛大臣政務官  
(自民党参議院議員・52才) 東南アジア諸国の戦力分析(防衛大学27期・応用物理卒)ヒゲの隊長としてイラク先遣部隊の指揮を執る  
参加費 1000円(事前申し込みが必要ですが)  
申し込み FAX 06-4302-5187  
関西防衛を支える会(5月末まで)

### 第16回・関西防衛を支える会 定時総会の御案内

日時 平成25年5月26日(日)  
会場 ホテル・グランヴィア大阪  
大阪駅直上20F  
総会 14:00～14:45  
講話 15:00～16:30  
講師 陸上自衛隊中部方面總監  
陸将 河村 仁氏  
懇親会 17:00～19:00

方谷の軍制改革  
また、軍備にも着目し、里正隊(と云う)、武士ではない一般人からなる軍隊を創設しました。(安倍 総理の御地元の奇兵隊(創設)の十年も前にこの里正隊を設立しました。これを久坂玄瑞もわざわざ見学に来て、多大の影響を与えたものと言います。  
山田方谷は、七十二歳で没するまで教育に邁進し、彼の教えを受けた人々が大変活躍しました。彼の藩政刷新の効果は絶大で、板倉勝静は徳川幕府の筆頭老中にまで上り詰めることができました。方谷は勝静の右腕として活躍し、大政奉還の精神も彼が起草したと言われている。  
現在の日本と同じような状態となっていた松山藩を復興一万九千石から二十万石の実力とまで言われるようになった山田方谷のことを、我々は、今後の参考に大いに考えております。  
このことを念頭に置いて、以下、所信にはないことを含めて質問させていただきます。

方谷の皇統の堅守  
まず皇統の問題です。  
平成十六年十二月、皇室典範に関する有識者会議が突如設置されました。国論を二分することになったわけでありました。  
背景には、昭和四十年十二月三十日に礼宮文仁親王、現在の秋篠宮殿下御誕生以降、平成十六年まで四十年間親王様の御誕生を見ない異常な事態がありました。この四十年間に八方の女子皇族が御誕生になっておられたのに、男子はゼロという状態でした。男女ほぼ五割と見られている確立から見れば異常な事態が出現しておりました。今上陛下の次の世代において皇位を継承すべき男子のお世継ぎがわからないというところ、これを二心憂えての有識者会議の設立でした。  
しかし、これをよく吟味してみると、皇室の危機を克服するところか、この危機に乗じて皇室の解体の企画につながる皇室典範の改正という手段で、これを間接的に行うとする意向が明白なものになりました。  
そして、平成十七年の一月に開始された有識者会議の結論は、女系天皇の出現を可能とするものになりました。当時の総理大臣は、よい答申をいただいた、次の通常国会で取り上げる、とまで言い切ったのであります。  
しかし平成十八年二月七日に秋篠宮家の紀子妃殿下御懐妊の兆候が発表され、二月九日には、皇室典範改正法案の国会提出は見送るといふことになりました。そして、

(一面から続き)

同年の九月六日に悠仁親王の御誕生で、この作業は打ち切られることになったのです。

しかし、皇室典範の改正をめぐるとなると、決して諦めておりません。平成二十三年十月に、女性宮家の創設という名分を立てて、行動を開始されました。

私は思い起こすことがあります。有識者会議で議論が二分されたとき、平成十八年の春、武道館で国民大集会を開催いたしました。当時のマスコミの一部は、あんな大会場を満杯にするような人は集まらない、せいぜい半分だ、と言いました。当時出席した私は、感激に浸りました。一階のアリーナ席から三階まで人々が参集、一万人を越える人々の大集会となった訳であります。

＝旧宮家の復活を願う＝

各界より数々の意見が寄せられました。イスラエルのヘブライ大学の教授、ベン・アミ・シロニ氏のメッセージに皆感動いたしました。自分はユダヤ人であり、ユダヤ教のラビ・お坊さんは男親から男の子に引き継がれる。全世界に十億人を越えるカトリック教徒がおり、イスラエルもカトリック教徒も、男女同権意識が強いけれども、ローマ法王が男だということでも誰も異論を差し挟まない。それは、長い歴史、伝統、文化のなせるわざであり、誰もが当然のことだと思っております。

日本の皇室は、百二十五代男系で続いた、世界唯一の存在ではないか。何で日本人は、その尊いものを愛さようとするのか、日本人よしっかりせよ、と言っているのです。

私は総理にお尋ねします。

皇室典範の改正により、男系の継承は可能だと思えます。本来であれば、皇室の家法である皇室典範のことを我々国民が云々すべきではありませんが、昭和二十二年の連合国の強権によって、十一宮家が断絶、皇室典範は憲法のもとに置かれてしまい、国民の代表たる我々が意見を述べなければならなくなりました。皇統の存続について、総理大臣の見解をお聞きしたいと思います。

＝憲法改正を求め＝

次に、日本国憲法の問題です。総理も改憲論を展開されており、私も現在の憲法は改めたいと思っております。

我が党の石原慎太郎氏は廃憲論を述べております。それは、現憲法を改正するのではなく、憲法を新しく制定すべきとの意見です。被占領国に押し付けられた憲法の変更を迫ることは、ハーグ陸戦条約の四十三条、大西洋憲章の第三条等に逸脱することになるからであり、違法な手段・不法な条件で意図的に改正された日本国憲法は問題との見解です。現在、九十六条改正が憲法改正の要のようには言われておりますが、総理として憲法を

改めるにはどうしたらいいのか、この事をぜひお聞かせいただきたいと存じます。

《経済問題質問は省略》

＝国防予算の要増額＝

次に、外交、安全保障について質問させていただきます。

北方四島・竹島そして尖閣諸島を巡って緊張が高まっています。ロシアとの関係、韓国とのあきれつ、中国の覇権主義、どれ一つとっても我が国にとって喫緊の課題です。

アルジェリアのテロを見ても我が国の情報収集力の不足が現実であります。予算の貧しさも嘆きます。我が国の現状を見ると、諸外国では軍事費が増大しております。日本は小泉内閣以来、実質的に削減をしております。この国の安全と平和を守る上で限界に近づいております。国の財政状況を見ると、その厳しさは解りますが、防衛費を思い切った増額が必要と存じます。福祉が叫ばれておりますが、国の平和と安全を担保することは、福祉と同じくらい、国民の心の安寧を保つためにも必要と存じます。防衛費の確保は考えのようですが、思い切った防衛費を大幅に上げる決断をして頂きたいと存じます。領土

国の平和と安全こそ国民の心の安寧保つ

問題に関しても、我が国は正々堂々と国際司法裁判所へ提訴するなど、正しい行動をとるべきだと考えます。防衛費増額と領土問題について総理のお考えを伺いたいと存じます。

＝拉致被害者の早期救出＝

小泉内閣のときに、北朝鮮は初めて拉致を認めて、五名の被害者が帰国し、引き続き家族の方々も帰ってまいりました。そして、昨年で十年も経っております。この間、何の進展もありませんでした。御家族の方々も感をとられ、全国で二十人になんなんとする署名も集まっております。拉致された方々は必ず生きておられると確信しております。

総理も拉致の問題で、これまで目覚ましい活躍をされておりましたが、拉致問題解決のため、総理は日本政府としてどう対応していくのか、六ヶ所協議（六ヶ所国協）のこともよく考えて、ぜひそのお考えを承りたいと思っております。

鳩山内閣のとき日米関係にひびが入り、普天間基地問題で米国の関係にきしみが、沖縄の方々にも不信を与えております。日米関係の円滑化のため、総理はどう

対処されようとしているのか、これも総理のお考えをお聞かせください。

《社会問題質問は省略》《震災復興質問は省略》

先程も触れましたが、防衛力の整備は我が国にとっても大変重要な課題です。日本独自の防衛力整備に関し、向こう十年は我が国の優位が保たれている今、集団的自衛権の行使を含む集団的安全保障、核攻撃に対するシミュレーションの必要性や我が国の防衛体制のあり方について、御意見をお聞きしたいと考えております。

最近、TPPについて議論がくまびすしくなっております。最大の同盟国アメリカの提唱ですから、話し合いには参加すべきと考えますが、農業問題を含め、二十四項目全てに国益に関する重要な検討項目があります。私どもは、この交渉も是非は、非は非で国益を十分考慮して臨むべきと思っております。TPP交渉につき、総理のお考えをお尋ねいたします。

＝一般会計と特別会計の連結決算を望む＝

次に財政制度改革につき、現在の単式簿記、現金主義から、世界標準の複式簿記、発生主義への転換が必要と存じます。東京都や大阪府では既に採用して、大変な効果が上がっております。この会計制度の改革につき、御意見を伺いたいと存じます。

私どもは、国の一般会計、特別会計等を連結し、予算ベースで財務諸表を作成、国の財務のコントロールを徹底すべきと思っております。

＝日銀法の改正＝

政府と日銀の責任分担を明確化する協定が必要と考えます。政府が日銀に物価目標を指示する場合、その目標を達成するため、日銀は、非伝統的な金融政策に踏み込まざるを得なくなります。その政策実施の責任は政府が負うことを明確化すべきであります。政府と日銀の責任分担、日銀のガバナンスのあり方を再定義するための日銀法の改正が必要です。総理の見解をお聞きします。

《国会議員定数削減質問は省略》

山田方合は、今の日本の現状と類似した備中松山藩の大改革を単なる経済復興だけでなく、金融、財政、必要な公共事業、流通、教育体制、軍備改革と、総合的に成し遂げました。

私どもは総理の姿勢に共感を覚えるものであります。が、ぜひ、三本の矢の総合的な抜本改革によって日本再生のために頑張ってください。ことを祈念し、私の代表質問を終わります。

《内閣総理大臣答弁》

ただいま平沼副議長から、格調高い、そして示唆に富んだ御質問をいただきました。お答えをさせていただきます。

皇統の存続についてのお尋ねがございました。安定的な皇位の継承を維持することは、国家の基本にかかわる極めて重要な問題であります。野田前内閣が検討を進めていた、いわゆる女性宮家の問題については、改めて慎重な対応が必要と存じます。男系継承が、古来例外なく維持されてきたことの重みを踏まえつつ、今後、安定的な皇位継承の維持や、将来の天皇陛下をどのようにお支えしていくかについて考えていく必要があると考えております。

憲法改正についてお尋ねがありました。現行憲法の成立過程については種々の議論がありますが、現行憲法は、最終的には帝国議会において議決され、既に六十有余年経過したものであり、有効なものと考えております。憲法改正については、党派ごとに異なる意見があるため、まずは、多くの党派が主張しております、憲法第九十六條の改正に取り組んでまいります。

防衛費と領土問題については、厳しさを増す安全保障環境を踏まえ、国民の生命財産と領土、領海、領空を断固として守り抜くため、しっかりと確保してまいります。我が国が抱える領土問題については、竹島問題は、平和的解決を図るため、粘り強い外交努力を行っていき、北方領土問題は、四島の帰属の問題を解決して平和条約を締結するため粘り強く交渉に取り組んでまいります。

なお、尖閣諸島については、我が国の固有の領土であることは歴史的にも国際法上も疑いのないところであります。現に我が国はこれを有効に支配しております。したがって尖閣諸島をめぐる解決すべき領有権の問題は、そもそも存在しません。

拉致問題は、我が国の主権及び国民の生命と安全にかかわる重大な問題であります。国の責任において解決す

べき喫緊の重要課題であります。我が国としては国際社会とも連携し、北朝鮮に対する対話と圧力の方針を貫き、すべての拉致被害者の安全確保及び即時帰国、拉致に関する真相究明、実行犯の引き渡しに向けて全力を尽くしてまいります。

普天間飛行場の移設問題についてのお尋ねがありました。日米同盟は日本外交の基軸であります。普天間飛行場の移設を含む日米軍再編については、現行の日米合意に従って進め、抑止力を維持しつつ、沖縄の負担軽減に全力で取り組んでまいります。普天間飛行場の固定化はあってはなりません。政府としては、沖縄の声によく耳を傾け、信頼関係を構築しつつ、普天間飛行場の移設に取り組んでまいります。

我が国の安全保障体制についてのお尋ねがありました。我が国周辺の安全保障環境が一層厳しさを増していること等を踏まえ、現防衛大綱を見直し、我が国の防衛体制を強化してまいります。また、集団的自衛権等については、安全保障の法的基盤の再構築に関する懇話会の報告書を踏まえつつ、新たな安全保障環境にふさわしい対応を改めて検討してまいります。

TPPについてのお尋ねがありました。自由貿易の推進は、我が国の対外通商政策の柱です。力強い経済成長を達成するためには、自由貿易体制を強化し、諸外国の活力を我が国の成長に取り込む必要があります。他方、我が国の公約で明記したとおり聖域なき関税撤廃を前提とする限り、TPP交渉には参加しません。TPPについては、政府としては、これまでの協議の内容、TPPに参加した場合に生じ得るさまざまな影響等も含め、しっかりと精査・分析した上で、国益にかなう最善の道を探ってまいります。

国の会計制度改革についてのお尋ねがありました。東京都や大阪府の取り組みと同様に、国においても平成十五年度決算分より、毎年、複式簿記、発生主義と云った企業会計の考え方、及び手法を参考として、国の財務書類を作成、公表しているところであります。こうした企業会計と同様の手法で国の財政状況を把握し、また、わかりやすく開示することは重要であると考えております。引き続き、その有効活用等に取り組んでまいります。

《以下の総理大臣答弁略》

一月三十日衆議院本会議速記録（議事速報）より抜粋

＊この議事速報は正規の会議録が発行されるまでの間、審議の参考資料に供するための 未定稿版で一般公開用ではありません。（文責・新川）

# 関防会歴史勉強会

## 中島サロン 第41回

2月9日

本題に入る前に私の自己紹介をさせていただきます。関西大学を出ましたが、何故その大学に進学したのかと言うと、関西大学には網干善教という先生がいらっしゃったからです。先生を慕って大学に行くというのも近ごろでは珍しいのですが、強い意志をもって関西大学を選びました。

網干先生は昭和47年3月に、皆様もよくご存じの高松塚古墳を発掘されました。そのとき私は中学2年生から3年生にあがる春休みでしたが、以前から考古学に興味を持っていましたので、その発見は私には衝撃的でした。考古学の道に進もうと気持ちが強くなり、網干先生の教えを受けるために関西大学に進んだわけです。この昭和47年という年は日中国交回復がなっており、その記念に中華人民共和国出土文物展が、東京と京都の国立博物館で開催されました。昭和48年です。私も見物に行きまして、その影響もあります。

中国のことを勉強しないと日本の歴史は把握できないのではと考えて、博士課程に入ったときに網干先生にお願いして、文部省の交換留学生で北京大学に留学させて頂きました。二年半北京大学に席を置いていたのですが、大学で勉強するよりも広い中国大陸を駆け回りながら向こうの遺跡を探検してました。一人旅ですので、憂慮はな〜、えい目に合ったこともあります。そのような訳で中国の事情はよく理解しているつもりです。軍事のこともNHKの歴史番組の「名将の采配」にも17回出演したりして、中国の軍事評論家という肩書も頂いている次第です。中国(編集部・以後支那と表記)の



戦いも、やはり理に適ったもので、そのセオリーは今の戦いにも通用するものです。それと大事なことは士気を落とさない事です。

### 飛鳥時代の朝鮮情勢

それでは本題に入ります。白村江というのは河の名前なのですが、『日本書紀』の中に出てきています。この白村江の読み方が「ハクスノエ」と呼んでいて、「ハクソンコウ」と音読みしている二通りあります。中国の書籍の中に同じような記述がありますが、ここでは「白村」と「江」の字がないんです。朝鮮半島はいつの三国時代が長く続きますが日本の古墳時代は大体朝鮮の三国時代です。百済、新羅、高句麗ですね。北の高句麗は軍事国家で、今の北朝鮮の方です。南の方二つに別れていて、中国寄りが高句麗、左の方が日本側で新羅ですね。このうち百済が西暦660年に最初に潰されます。その次が高句麗で、一人勝ちをしたの

# 白村江の戦いと天智天皇の国防(要旨)

### 阪南大学教授 来村多加史

が新羅です。その結果いわゆる統一新羅が成立します。白村江の戦いは、丁度その時期です。百済と日本はちょっと離れていますが昔から仲良かったんです。日本に仏教を伝えてくれたのも百済です。

百済の聖明王という王様が仏像とお経を欽明天皇にプレゼントした、それがいわゆる日本に仏教が正式に伝わった、と云う歴史です。新羅とは国交断絶しているわけではありませんが、百済と一番仲良かったんです。この時代、日本は飛鳥時代になりつつありますが、飛鳥時代は百済と新羅の仲が最も悪く時代で高句麗と百済が手を結ぼうと云う動きが出てくる、そうなる三国内の二つが同盟を結ぶと新羅危うしとなります。

そこで新羅は当時支那の「唐」の国と同盟を結んだのです。高句麗・百済の同盟軍と支那(唐・新羅の戦いが始まりますが、当然のことながら支那(唐)の軍勢は強く、真っ先に百済が滅ぼされてしまいます。

支那の隋王朝と唐王朝はそれなりの理由があって朝鮮半島に進出したのです。高句麗は軍事大国で、隋王朝が煬帝時代に200万を号する軍勢を派遣しても落とせなかった強い国でした。支那としては高句麗をやっつけたい、と気持ちが強く、新羅は勿論百済を潰したい、この両者の思惑が一致して同盟関係を結んだのです。

### 百済の救済に向かう日本

唐・新羅の同盟が成功して百済が滅びると云うこと

王宮が陥落して国王の息子の行方が分かりません。王族の血を引く人を立てて国造りしなければなりません。そこで丁度うまい具合に日本に豊璋(ホウショウ)と言う王子が人質としていたので日本から招き寄せて百済国再興を図ろうとしたのです。日本としては早く援軍要請に応じて百済に豊璋を送り込むわけです。

日本としては百済が滅亡すると朝鮮半島への足掛かりがなくなり、大変な事になります。朝鮮半島から古墳時代「鉄」を輸入していたのです。鉄は平安時代になるまで国産できなかったのです。平安時代になっても砂鉄を溶かして鉄鉱石を砕いての生産が出来なかったのです。その鉄鉱石の生産をしていたのが半島の百済、新羅あたりだったのです。百済が滅亡すると鉄の供給がストップしてしまいますので非常に事になります。その鉄は鉄・鋳などの農具や刀になりますから、百済を何とか復興させたい。新羅は供給してくれませんか。

### 日本の国力は大であった

当時の齊明天皇(女帝)は661年7月に筑紫の国の朝倉宮でお亡くなりになります。齊明天皇は飛鳥(奈良)の都から九州まで赴き前線陣頭指揮を執るとされたんです。齊明天皇と舒明天皇の第二子の中大兄皇子(天智天皇)は皆様に良くご存じのように蘇我入鹿を誅殺され、大化改新を断行されたように国造りに、躊躇しない決断力と行動力のある大変立派な方でした。その皇子が百済救済に軍勢を送ろうと決意されたのです。



663年、中大兄皇子は新羅遠征軍2万7千人を出発させます。小舟に乗り対馬海峡を渡るわけですが、それだけの国力が日本にはありました。先発5千人と合わせ3万2千人が百済救済に遠征しているのです。ただ百済にとって非常に残念なことが起こります。

663年6月、鬼室福信が日本から招いた豊璋を殺そうとして、逆に捕らえられて打ち首になってしまったのです。百済勢は力強いリーダーを失い軍の士気がドーンと下がります。それでも日本軍は白村江の河口に進軍し、唐の軍勢と戦おうとしますが、百済の内紛で陸上部隊の進軍がストップしてしまうのです。陸軍の足並みが揃っていても強敵の唐ですが、水軍だけで白村江に向かって進軍します。致命的な戦略・戦術のミスです。ここで白村江の歴史を簡略にひもといたわけです。

『日本書紀』は漢文です、奈良時代あたりから日本書紀研究が始まり平安時代には日本人が読み易いように貴族が返り点を開発し、それが現在まで踏襲されています。江戸時代、本居宣長のよような国学者が頑張っていて、どのルビもない漢語を読み下しました。読みに歴史があり自己流で読んではいけません。

### 『日本書紀』の天智紀より抜粋

齊明天皇朝倉宮で客死し、中大兄皇子長津宮で戦略を練る。

百済に援軍と救護物資を送る。

百済の人質、豊璋の帰国を認める。

唐軍が高句麗の首都平壤に迫る。

倭軍の陣中で高句麗・百済滅亡の前兆がおこる。

百済、都々岐留山に城を構えて唐・新羅に対抗する。

豊璋、倭の水軍170隻に守られ、百済に帰り王となる。

倭の水軍2万7千人、新羅に反撃する。

豊璋、鬼室福信を斬る。

百済の混乱に乗じて、新羅が攻勢になる。

豊璋、白村江での戦いを決意。

唐の水軍、白村江で陣を固め、

倭軍の第一次攻撃を挫く。白村江の戦い勃発。

### 戦いの反省

以上のように日本書紀は表現しています。四辻を守る唐の軍勢にすれば、白村江の河口が突破されたら倭の水軍が遡上して四辻が危機に陥ります。唐の水軍は横一列に陣を張り、倭の水軍を阻止しました。「戦船一百七十艘」という唐軍の数は日本水軍に比べて少なく、逆に唐の軍船が大きい事が推測されます。「大唐陣を固めて守る」と記述されるように、倭の水軍は突撃したが、突破できなかった。倭軍の総攻撃も空しく、唐軍の挟撃を受けて大敗するのです。

『旧唐書(クトウシヨ)』には「四たび戦いて」とありますから緒戦に破れてから倭の水軍は3回負けていることになりそうです。しかし倭軍の撤退は早く、しかも的確に撤退しております。普通は追撃戦を受けてかなりの軍勢を失うのですが、日本の指揮官が優れていたため、ダメージを極力少なくして、百済の王族・遺臣を大勢日本に連れ帰ったのです。

このとき、母国を離れた渡来人たちは大阪平野のあちこちに住まい、知的水準の高い百済の皇族に従って来た職人たちは優れた技術を日本に伝えました。

『日本書紀』には第38代・天智天皇(中大兄皇子・西暦662~671)が白村江の戦いの反省として「防と烽と置く」と記述しています。防とは防衛部隊で、烽とは通信手段の「狼煙台」です。20キロ間隔で筑紫の唐津湾から飛鳥の都まで防衛通信網を設置します。九州を守るために大宰府の周辺に山城を多く造りますが、全国規模で山城の遺跡が残っています。生駒山の高安城も、そのひとつです。天智天皇は、防衛線が破られたときに備えて飛鳥では守り切れないと考えて近江(大津市)に都を移されます。天智天皇はそこでお考えになっていたのです。ご清聴ありがとうございました。

(文責・新川)

# 関防会歴史勉強会

## 中島サロン

第39回

10月13日

### 1 大学に奉職して

私は防衛大学校卒業以来現場一筋に歩んで来ました。航空自衛隊では技術幹部として航空機のフライトテストや設計などをし、三菱重工や富士重工の技術者とディスカッションしながらF-1戦闘機とかC-1輸送機の開発やF-2戦闘機のシミュレーター製作にかかわって来ました。その間、諸外国に留学させてもらったおかげで特にアメリカから見た日本という視点が身に付きました。

防衛研究所に行って安全保障や日本の防衛を考えながら防衛大学の教師として8年間考えたことは、今日日本で安全保障とか防衛とか、国際紛争とかテロといった講座を持っている大学がどこにもないということが日本の教育最大の課題だということでした。政治家はじめマスコミ人や企業人が防衛に関してディスカッションをこなすことが日本社会の底上げを妨げる大きな問題点なのです。大学に奉職して大きなカルチャーショックを受けたことは、大学は「市民」という言葉を用いず、防衛省では「国民」と言います。市民という限り自分中心主義であり、自己の権利であるとかモンスターペアレントになってしまうのですが、この言葉一つで大変悩んだものです。

ある財団法人で一般大学の政経学部や法学部の学生、東大で国際関係論を勉強する学生たちが勉強をしています。学生が安全保障とか日本の防衛や国際紛争、テロとかを学んだことがあるかと言つと二人もいない。しかも大学の先生の多くが軍事とか防衛に理解がない人が多いのです。私はこの財団で学生15人を指導していますが初めに右翼の先生に出会えたと言われました。防衛意識が一番遅れているのが政治家でありマスコミであり大学の先生ではないかと思えます。星様大学は2004年の創立ですが日本発の安全保障とか国際紛争、テロの講座を持つというところで奉職することになりました。学生は私の本音によく答えてくれていると思います。

2 平和ボケー1億総軍事オンチは極めて危険

さて、防衛とは本来市民の生命、財産そして領土を守るものであり、自分で自分を守ることは世界共通の常識です。昔の軍隊の悪い点だけを過大に評価し、すべて防衛は悪いことだと考えるのは間違いです。自分の事も満足にできないような日本や日本人は世界から信頼されず、拉致問題などでも北朝鮮に日本という国は脅せばすぐに屈服する国だと認められてしまつたのです。韓国やロシアにも領土問題で好き勝手される非常に弱体化した日本があるわけです。日本が立ち上がる原動力は他でもない日本人自身の英知と努力の他ありません。国の弱体化

は国民自身の平和ボケが深くかかっています。

大学などにおいて安全保障論や危機管理論といった科目を設置して「平和ボケ」から脱却することが必要です。私の属する大学はこれらの科目を履修することができない日本唯一の大学で、他大学では絶対に聞けない安全保障の勉強をすることができない大学です。

資源に乏しく、自給自足ができない我が国は、輸入資源に付加価値をつけて競争力のある工業製品を作り、多くの国々に輸出して成り立っています。即ち、輸出入の長大なシーレーンに沿って紛争がないことを一番求める国であり、わが国ほど世界中が平和であることを必要とする国はありません。わが国だけが平和であっても、国は成り立ちません。全ての国が平和である必要があります。

平和を追求し戦争を防ぐには、戦争を知る。即ち戦争の徹底的な研究しかありません。今こそ伝統と威厳、独立の気概に満ちた日本、明治に帰るべきです。

# 日本の危機は危機が認識できないのが危機(要旨)

星様大学教授 新治 毅(十三期大)

私が防衛大学校にいた頃、ある有名大学法学部の女子学生が勉強にきました。英国のケンブリッジ大学の大学院に国際関係論の勉強で留学することになり、初めて孫子とクラウゼヴィッツが国際関係論のイロハのイであることを知ったというのです。大学院の論文テーマは想像もしなかった「日本の防衛政策」で彼女はパニックに陥ってしまったのです。日本の国際関係論の先生とアメリカやイギリスの普通の大学の先生ではレベルが全く違います。日本の総理大臣でも軍事を知らないのですから北朝鮮や韓国の軍事を中心に考える国家指導者に到底勝つこともできません。イギリスの大学に戦争研究学部があるように、大学に安全保障講座を創設する必要があります。そうすれば軍事や戦争を理解できる学生が増え、研究者も育ちます。このことが一部の日本人の観念的な戦争論議の跋扈を防ぎ、正しい戦争抑止を考へるベースが育ちます。軍事に無知であることは危険なことにはな、軍事アレルギーほど軍事を一人歩きさせるものはありません。特に、政治家とか社会のリーダーには軍事知識は必須です。一億総軍事オンチは、国家の将来の方向を見誤ることになります。日本にはこの安全保障の考え方が

すっぱり抜け落ちていきます。日本においては安全保障研究が防衛大学校だけにあるということの方がおかしいのです。日本の優秀な頭脳を集めて、軍事や戦争を、哲学、文学、人類学、社会学、歴史学、生物学、工学、理学などあらゆる側面から研究する必要があります。多数の医者が集まって人類共通の敵であるガン进行研究し、ガン克服する方法を研究するように、人類共通の敵である戦争を、あらゆる面から研究する必要があります。それが戦争を防ぐ(平和を追求する)最良の方法であるからです。政治家はもちろん外交にかかわる官僚、歴史学者、科学者はもちろん、経済学者や経済人が戦争を学ばなければなりません。当然私たち一般の国民も同様です。

3 現在の日本を考へる「日本は大日本帝国を作り西

欧列強の人種差別を駆逐した素晴らしい国、

1853年にペリーが浦賀にきた時、「太平の眠りを覚ます上喜撰(蒸気船)たった四杯で夜も寝られず」という狂歌が当時流行ったのですが、鎖国をしていた江戸時代で、どうして日本が植民地化される危機だと理解できたのか?1840年のアヘン戦争で300年続いた大清国がイギリスに簡単に敗北した教訓を生かし、たった

15年で政治改革(明治維新)をし、文明開化と富国強兵で近代国家に脱皮しました。そして、日清戦争、日露戦争で勝利することができ、欧米諸国に列する強い国家を作りました。黄文雄先生の「大日本帝国の真実」では日本は東南アジアや世界の国々に大きな影響を与えた大帝

国だったとして、私たちの価値観を大きく変えてくれたと述べています。すなわち日本は、搾取や侵略とは程遠い、モンゴル帝国やオスマン帝国に匹敵するアジア・世界の白人による植民地支配に対する解放大日本帝国を作り上げたということになります。ペリーが浦賀に来たときには鉄の船や蒸気で走る船などみなこともなかった日本人が、明治維新後、見様見真似で鋼鉄船を作り、40年後の1894年に日清戦争に勝利し、その10年後の1904年、今度は日露戦争に勝利します。ロシアと中国に勝てばアジア・太平洋では残る大国はアメリカしかなく、必然的にアメリカと太平洋の覇権を巡って戦うことになるのです。考へてみれば、日本は、米国、英国、オランダ、オーストラリア、中国、ソ連など、世界を相手に「東に

なつて来るなら来い」という姿勢だったのです。たった100年の間にこのように強いどの国も成し得なかった

大帝国を作ったのです。黄文雄先生はアジアの諸国が独立し、国連のメンバーになるきっかけを作ったのは日本で、欧米列強もなし得なかった大きな影響力を持ったことを、もっと誇ってよいと言っているのです。1941年の米国と日本のGNTは約13対1です。1903年のライト兄弟の初フライトからおよそ40年後の1940年に名機ゼロ戦を作りアメリカに立ち向かう、大鉄、鋼鉄船も飛行機も40年間で西歐にキャッチアップすること自体が、凄く民族だと思います。そして、西欧の人種差別と植民地政策に立ち向かい、アジア開放に立ち上がった日本が4年間戦争を遂行し、既得権を奪われた敗戦国日本を欧米諸国がバッシングするのは当然で、アメリカは

1946年に平和憲法を与え日本から軍事力を無くす政策と、一方では軍事力をもてないように工業力を無くす

練られています。天皇を利用して占領政策を成功させ、その後天皇制を廃すという理念、憲法を作りました。1947年からアメリカの政策は反共産主義の逆コースになるのですが、1945年から1947年までの2年間で日本の占領政策は、憲法も含めて決まってしまったのです。以後、それを変更できず今に至っています。そして、今までわが国は、戦後65年間憲法は平和憲法で良いものだと教育されてきました。本当にそうでしょうか?それは極めて不自然で、占領軍の謀略戦に加担する行為ではないでしょうか?もう65年たったのですからその価値観を見直す必要があるのではないのでしょうか?

4 日中友好とは何だったのだろうか?

日中友好とは拓殖大学の黄文雄先生がいわれるように、まさに「騙しの戦略」ではなかったのかと思います。中国は、毛沢東の文化大革命で国内が疲弊し、共産党の存続も危ぶまれた時期がありました。このとき考えたのが、日本の金と技術を利用する戦略が日中友好であったのではないかと思われま

す。当時二クソン訪中後にマスコミは日中友好のバスに乗り遅れるなど煽りました。そのお陰で田中首相は訪中し台湾を切り、日中友好を結ぶのですが、騙しの戦略に乗ってしまったのではないかと思います。この40年間、日本は新幹線をはじめ多くの技術と多額のお金をとられてしまいました。一方、日本が中国からもらったものは朱鷺と羽とパンダ2頭といわれます。

黄文雄先生が中国人は「騙の文化」、日本人は「誠の文化」と言っています。「誠の文化」は「騙の文化」に勝てないから国家も個人も適当に付き合いなさいと言っています。中国に工場を持ってほんどんど利益が出ず、撤退もできない状態にあることなど、日中記者交換協定等の為に中国に都合の悪い報道はできないのです。日中友好に反する事は書かない、台湾を擁護することとは書かないなどという取り決めて中国の実態は報道されません。

中国は現在戦争をしています。超限戦という戦争です。外交戦、インターネット戦、情報戦、心理戦、技術戦、密輸戦、麻薬戦、威嚇戦、非軍事面では、金融戦、貿易戦、資源戦、経済援助戦、制裁戦、メディア戦、イデオロギー戦。これらを総動員して中国共産党100周年を目指して着々と戦略を練っています。日本はアメリカとロシア、中国、インド、オーストラリアの大国に囲まれた非常に難しい地政学的位置にあります。それらを考へてわが国の安全保障戦略を考へる必要があります。

(文責・山本均)



米国の軍事筋は「米国の基本的な軍事政策は、核保有国とは戦争しないことだ」と公言している。ということとは、もし北朝鮮が核兵器を利用して何らかの脅しをかけても、米国は動けない、ということになりそうだ。

我が国の周辺国である中国(以後支那と表記)とロシアは既に強大な核戦力を保有している。さらに、いよいよ北朝鮮までもが米国に対抗できる核戦力を保有するという悪夢のような事態が目の前に迫っている。

このような事態に我が国はどのように対処しようとしているのか。我が国には周辺国の核戦力に対抗できる「抑止力」があるのか。米国に依存するだけではないのか。いろいろと疑問が生じてくる。「国防」とか「防衛」というものは国家社会が存続していくうえにはどうしても必要なものだ。これなくして生活の安定や安心は保たれない。この考え方が普通でもあるにもかかわらず、我が国には「それは右翼の考え方だ」と信じ込んでいる人が少なくないのはどうしたことだろうか。

我が国がポツダム宣言を受け入れた昭和二十年八月から六七年余り、日本人は基本的な発想を転換しなくては、それこそ滅亡の可能性すら否定できないと私は考えている。なぜなら、前記のように、我が国は核兵器で武装した敵性国家に囲まれているにもかかわらず、必要十分な核抑止力を持つていないからである。

国防について無頓着な日本の対極にあるのが中東のユダヤ人国家イスラエルである。イスラエルは、一九四八年五月一日に建国宣言をしたが周囲をアラブ各国に囲まれており、アラブ社会にポツンと浮かぶ小さな国家だ。

ユダヤ人は、自分たちの国家を持っていなかったため世界各地で差別され、軽蔑され、弾圧されたという歴史を持っている。中でもナチスドイツによる「ホロコースト」、及びロシア国内での「ポグロム」という名のユダヤ人に対する殺人、略奪、弾圧はユダヤ人に根深い不信感をもたらした。そして彼らは「無抵抗のままガス室に送られるという経験は二度としない」と堅く心に誓っている。その思いは、「国家のやるべき事は第一に安全の確保である。したがって安全保障が何よりも優先される」という政策に現れている。

# 核抑止のすすめ

常任理事 山本賢一

あらゆる種類の情報の収集力であり、敵の攻撃を未然に防ぎ、勇敢で愛国心を有する兵士を教育する制度であり、国防の必要性をすべての国民に教える教育の力である。

イスラエルは、核兵器の保有を事実上実現している。世界最強の情報組織の一つといわれる「モサド」という情報機関を保有している。いずれも「無抵抗のままガス室に送られないための備えである。この強い決意は当然、武器の開発や輸出にも力を入れることになる。これが国際社会の実態なのだ。

我が国は二度にわたる原爆投下による死者数は四〇万人を越えている、といわれる。我々は「二度とこんな苦しみを味わいたくない」と強く念じている。では、「二度と被爆国にならない」ための備えは十分なのか。答えは否である。

隣の共産支那とロシアは核武装しているばかりではなく、強大な軍備を備えている。北朝鮮も核開発を行い、既に複数回の核実験を行っている。加えて、これらの周辺三カ国は、我が国を射程内とする各種ミサイルを保有している。にもかかわらず、我が国には確たる国防態勢もなく、国民を非難させる「核シェルター」も満足に用意できていない。経済力が弱いために国防態勢を整備できないのではなく、「愚かな観念にとらわれているために」しっかりとした国防態勢が取れないのだ。

愚かな観念とは、次のような考え方である。  
一、軍備を持たなければ戦争にならない。  
二、憲法九条がある限り我が国は戦争にならない。  
三、世界最初の被爆国だから核武装しない。  
四、悲惨な戦争はいやだ、だから自衛隊を軍隊にしてはいけない。

いずれも国際社会の常識を大きく逸脱している愚かな考え方である。大半の日本人は、理解力に優れた人々だが、戦後の教育で間違った観念を植え付けられている。そろそろ「愚かな観念」を見直さなくてはならない。



紀元祭へ勅使下向(天皇陛下のお使い)

奉祝  
皇紀2673年  
2月11日



神宮社殿前の関防会々員



銃剣道を奉納する陸上自衛隊(大久保駐屯地)



海上自衛隊、舞鶴総監部の森井三尉(中)と多田二曹(右)が制服で参拝

紀元祭 奈良・橿原神宮  
皇紀2600年=昭和15年=西暦1940年



空母端鶴の碑前で(2月11日)

## 第3師団創立52周年 記念行事御案内

日時 5月19日(日)午前9時から  
観閲式 10:20開始  
場所 陸上自衛隊千僧駐屯地  
伊丹市広畑1-1  
電話 072-781-0021  
\*詳細は上記駐屯地へお問合せ下さい

## 第37普通科連隊 創立56周年記念 行事の御案内

日時 4月28日(日)9:00から  
場所 信太山駐屯地  
和泉市伯太町官有地  
電話 0725-41-0090  
備考 JR信太山駅より送迎  
バスあり  
\*詳細は上記駐屯地へお問合せ下さい。

# 宮古島分屯地 訪問記

## 副会長 大道欣孝

球春真っ盛りの二月、プロ野球オリックス・バファローズの春季キャンプが行われている沖縄県の宮古島を訪ねた。

キャンプ休日のこの日、かねてからの念願である航空自衛隊宮古島分屯基地の訪問が実現しました。宮古島のほぼ中央、野原岳の尾根づたい、サトウキビ畑の彼方に目印となるレーダードームがありま

す。奇しくも訪問した二月二十日は北朝鮮が三回目の核実験を敢行した日で、この日は不肖・私の七〇才の誕生日でもあります。「こんなでもないことをやらして」と言いつつ誕生日の偽らざる実感です。

この部隊の正式名称は「防衛省航空自衛隊宮古島分屯基地第五三警戒隊」と云います。同基地のホームページによると、昭和四八年二月二十五日、米



白梅之塔

軍のレーダー部隊の任務を引き継いで以来、日本の最南端・最西端の航空自衛隊の部隊として南西域の警戒監視任務に従事している。同部隊は、隊本部・監視小隊・電子通信小隊・基地業務小隊で編成されてお

り、特に監視小隊は二四時間態勢で国籍不明機の早期探知に努めている。近年、東シナ海での中国軍の航空機や艦艇等の活発化など、その任務は益々重要性を増している。この事で、案内して下さった警戒隊副隊長・中村哲郎三佐によると、昨

年二月、北のミサイル発射に備えて基地内の高台にペトリオットが配備されたことから多くの取材陣が押しかけ大変だったそうです。今もその時に築かれた真新しい土塁が印象的でした。

同所は旧陸軍の先島集団司令部の跡地で、戦後米軍に接収されていた



左 大道氏、右 中村三佐

ことや、日露戦争時の久松五勇士(北上しているバルチック艦隊の情報を漁船を漕いで通報した五名の漁師の呼び名の話)などを伺った。

また、帰阪時には飛行機の乗り継ぎ時間を利用して、沖縄本島にある「白梅之塔」を参拝しました。ここには、先の大戦で学徒隊として負傷兵の看護に従事した沖縄県立第二高等女学校の乙女達が無念の最後を遂げて眠っています。以前、関防会で、この地を慰霊のために訪問しました。今回、もう一度行ってみたいとなつたのは、青山繁晴さんがテレビで「ひめゆりの塔」は知られているが、「白梅之塔」は沖縄の人ですら知らない人が多いのが現実」と云う発言を聞いたからです。

その話の通り、私の乗ったタクシーの運転手もその場所を知らませんでした。観光地化した「ひめゆりの塔」と違って周辺には一軒の土産物店もなく、公衆トイレがあるのみで、ひっそりとしていました。ただ、嬉しかった事は、私が訪れたその時に観光バス二台で参拝していた高校生がいたこと

です。この学校は神奈川県のA学園高校で、同校のホームページには、沖縄の戦跡を巡り、「白梅之塔」も参拝する旨が紹介されています。こんな素晴らしい学校があることを頼もしく感じた宮古島訪問でした。



前列左から3人目・濱野会長、高橋阪神基地司令、北川練習艦隊司令 (3月22日)

# 関防 フォト フラッシュ



3月22日朝、大阪天保山に入港した練習艦・かしま

# 後編 集記

＊1月30日、衆議院本会議代表質問をテレビで見ている。平沼起夫氏が格調高い質問をされていたので、さすがさま三宅博衆議院議員の事務所に電話して速記議事録を送って貰った。

ただ、残念なことは、維新の会の議席最上段に陣取る、石原慎太郎氏は静かに平沼氏の演説を聞いていた。その下段の弊会特別顧問の西村真悟氏も同様だった。しかし、上段左端に陣取る松野頼久議員は隣の藤井孝雄議員に話かけたり、

間断なくキョロキョロしていて落ち着きのない見苦しい態度だった。松野議員は維新の会・国会議員団幹事長と聞く、自党の代表質問中にある態度は何だ、まるで青二才ではないか。親父の頼三氏も草葉の陰で嘆いているだろう。

＊平沼氏が演説冒頭に挙げた、備中松山藩の山田方谷が幕末の政局に大きな影響を与えた事を知らない人が多いのではと思う。佐藤一斎の塾に学んだ佐久間象山門下の小林虎三郎は越後長岡の人で、小泉元総理が引用した「米百俵」の実行者であり、藩内にはライバルの、山田方谷門下の家老・河井継之助がいた。河井は南北戦争で初めて実戦使用された機関砲などを購入、いち早く洋式軍制改革を成功させ、その実力は諸藩から一目おかれていて、奥羽越前戦争では薩長士の北陸道鎮撫軍を悩ませた。米百俵で作られた長岡洋学校は旧制長岡中学となり、山本五十六が卒業して

いて、4月の関防歴史勉強会のテーマは「日本陽明学と山本五十六元帥」である。乞うご期待。＊備中松山藩の城は現存する山城では最古のものではないか。しっかりと城の建物が残っていて、登攀するのに1時間ほどかかる。城の維持管理に必要な軽トラック用の道が作ってあるが、観光客は歩いて登らなければならぬ。松山藩士は毎日登城するのは大変だったのだろう、ために麓に藩庁の建物があった。藩庁跡地には県立高校が建っている。

＊山本賢一氏の論稿は至極まっとうな話であり、米国の基本的な軍事政策は「核保有国とは戦争しない」、これは秘公然の事実である。我が国周辺の敵性三ヶ国が核武装している現状で、片務条約の日米安保が発動される、と思うのは大間違いである。日本の為にはあり得ない。米国にとって日本は対ロシア・対中国の「緩衝地帯」と考えるべきである。それ故に安倍総理は国家百年の計として「

**死んでたまるか!!**

田幸教授(琉球大)開発の特許商品!!  
沖縄モズクと北海道産真昆布がコアの純粋フコイダンダブル配合!!  
生活習慣病が気になる方に...

**Fucoidan**  
フコイダン

【フコイダンZ】150粒(25~50日分) 25,000円  
お試し用30粒入り 2,000円と  
お徳用350粒入り 50,000円もあります。

**Beauty Health Laboratory**  
**ビー・エイチ・ラボ**  
〒553-0006 大阪市福島区吉野4-19-10  
TEL(06)6462-5820 FAX(06)6462-5824  
携帯・PC共通 <http://bh-labo.net>

---

**送迎車両の運行と管理は 安心・安全の弊社へ!**

**人員送迎の**

- ・乗用車・ワンボックス車
- ・マイクロバス・大型バス

**運転請負の専門会社**

社団法人 日本自家用自動車管理業協会[正会員]  
株式会社 **サンワ運行委託**

フリーダイヤル 0120-77-5645  
URL <http://www.sanwa-drivers.co.jp/>  
本社

〒570-0032 大阪府守口市菊水通2-19-1(菊水第二ビル)  
06(6993)5645 FAX06(6993)5644  
神戸支社 078(652)5645/京都営業所 075(595)5645

**御人会の御願い**

関西防衛を支える会では会員募集中です御入会御希望の方は下記口座にお振り込み下されば会員となります

三井住友銀行守口支店  
普通口座 1261314  
口座名 関西防衛を支える会

郵便振り込み  
口座番号 00960-2-137035  
口座名 関西防衛を支える会

一般会員 年会費 3000円  
維持会員 10000円  
法人会員 20000円

＊1口以上何口でも申し受けます。  
銀行振り込みの場合は小会まで住所など御連絡下さるようお願いいたします。  
(振り込み用紙には住所の記入が無い為、以後のご案内が出来ませんので)。  
＊会計年度は4/1~3/31です

**第12回 関防会の歴史勉強会 中島サロンのご案内**

日時 平成25年4月13日(土曜日) 午後4時から

講師 竹本 恒雄氏 (弊会顧問)  
元大阪府警・警視長、関西大学講師

演題 日本陽明学と山本五十六元帥

会費 5,000円 (含む飲食代)  
40才未満は3,000円(含む飲食代)  
学生は2,000円(含む飲食代)

会場 錦城閣 ☎06-6941-2185  
地下鉄谷町線、京阪電車天満橋駅下車直上  
キャッスルホテル3F(中国料理店)

主催 関西防衛を支える会 担当者 奥 久嗣  
☎090-3929-5267